

大家畜を対象とした畜産経営の分析・計画システム

(畜試 経営部)

1、背景とねらい

大家畜畜産経営では近年規模拡大の進行に加えて、自由化を目前にひかえ大きな市場変動が予想される中で、経営管理の重要性はますます増大している。経営管理を効率的に進めるために、最近ではパーソナルコンピュータを利用したプログラムシステムが農業サイドでも種々開発されてきているが、その多くは簿記を中心としたものにとどまっている。このため、畜産専門経営の経営分析から経営計画を立案していく上で不十分であった。

今回、大家畜専門経営を対象として経営分析とその結果に基づいた経営計画が行えるプログラムシステムを開発したので、普及奨励事項に供する。

2、技術の内容

(1) 対象とする経営形態

酪農経営、肉用牛繁殖経営、および同肥育経営

(2) 本システムの活用範囲

簿記記帳から貸借対照表と損益計算書の作成までは従来の方法で対応し、それらの財務諸表に基づく分析と計画設計が本システムの活用範囲である。

(3) 開発言語およびマニュアル

使用言語はMS-DOS上のN88ベーシックである。また、マニュアルは別途用意する。

(4) システムの処理概要

ア、経営分析システム

貸借対照表および損益計算書を用いて次の分析が可能である。

(ア) 貸借対表分析

- 単年度分析 ・ストラック図による全体分析
- ・安全性指標分析
- ・科目毎金額構成比

- 時系列分析 上記項目の時系列比較

(イ) 損益計算書分析

- 単年度分析 ・ストラック図による全体分析
- ・収益性指標分析
- ・生産原価分析
- ・売上高対比分析
- ・損益分岐点分析

- 時系列分析 上記項目の時系列比較

なお、貸借対照表分析、損益計算書分析とも、分析結果に対して「良」、もしくは

は「不良」のコメントが出力される。とくに損益分岐点においては、売上高分岐点比率に基づき、要改善点についてのコメントを出力する。

イ、経営計画システム

次のシミュレーションが可能である。

(ア)借入金年次返済計画シミュレーション

元利均等償還方式と元金均等償還方式に対応する。

(イ)借入金限界値計算シミュレーション

実績値をもとに年金現価係数法で計算する。

(ウ)損益分岐点分析の追うようによる短期利益計画シミュレーション

投資計画のある場合、ない場合ともに対応刷る。固定費と変動費の金額を変更し、計画経常利益を確保する必要売上高を計算する。

3、指導上の留意事項

- (1) 損益分岐点分析では、固定的性格の強い科目は固定費、変動性格の強い科目は変動費と一律に区分している。なお、固定費、変動費の科目分解は利用者が指定できる。
- (2) 本システムを複合経営で利用する場合は、決算データーを畜産部門として集計して取り扱うこと。

4、関連試験課題名

「大規模畜産経営効率化のための経営管理システムの策定」

(昭和62年～平成元年)

5、参考文献

- (1) BASICによる経営分析 (共立出版)
- (2) 損益分岐点がわかる本 (日本実業出版)
- (3) 畜産簿記 (全国農業会議所)
- (4) PC9801BASICリファレンス